

## 第 2 回 「情報化に親しむ」

平成 14 年 7 月 5 日 (金) 午後 7 時 ~ 9 時  
さくら会館 3 階ホール

コーディネーター：小林和人氏 乙津豊彦氏  
話題提供者：杉山行男氏 前原文明氏



### 《市長挨拶》

お出掛けをいただきまして、大変ありがとうございます。

きょうは、今年の 2 回目ということで、情報化の問題を取り上げて、いろいろと話をさせていただくことになっております。

~~~~~

開催の趣旨・福生市の概要については、第 1 回と重複しますので、省略いたします。

~~~~~

それでは、これから後の時間は、お二人のコーディネーターの皆さんにお任せします。

最初に、大多摩ハムの小林和人さんであります。

それからもうお一人、乙津豊彦さんです。町会長をされておりますが、仕事はコンピューターの会社をやっておられますので、そういった意味でのいろいろな御苦労、それから福生市のことについて言いますと、個人情報保護審議会、あるいは情報公開の制度の審議会の委員さんをしてくださっております、ある意味では、市のそういった側面でのアドバイザーと、こういう形でまたいろいろ話がいただけるのではないかと思います。

話題提供者の方は、小林さんの方から御紹介していただいた方がいいのでしょうか。杉山さんは、また後ほどいろいろ話があると思いますけれども、交通安全推進委員としてお仕事をいろいろして下さって、地域のことを非常に熱心にやってくださ

ている方という印象が強いです。きょうの話はまた全然側面の違うところから、いろいろお話しくださると思います。

前原さんは情報関係の専門の学者という視点からのお話がいただけるのではないかと楽しみにしております。

それでは小林さんと乙津さん、どうぞよろしくお願いたします。

### 《小林》

皆さんこんばんは。本日のコーディネーターを仰せつかりました小林でございます。

私は、仕事の方は、福生市で大多摩ハムというハム会社を経営いたしております。出身は経済学部でございますので、きょう私がこういう理科系、情報関係の話のコーディネーターを務めていいのかという迷いもありましたけれども、しかし、私も最近パソコン、10年未満でありますけれども、エクセルとかワードとか、それがやはり今の仕事にはなくてはならないものになっております。それは私が別にうまくなったわけではなくて、そういう機械の方から我々の方に接近してきて、簡単になってきた、そんな感じがします。

今では、いろいろなそういう画像処理を使いながら、例えば会社の PR のパンフレットをつくったり、もしくは試供品のラベルをつくったり、本来は外注しなければいけないものを自分でつくって安くあげているとか、そういったメリットもございますし、そしてまた、素人ですけれどもホームページを自分でつくって、最近では月に 6000 ヒットぐらいありますので、まあまあ見られているほうかと思っておりますけれども、そういったことで、一般的な市民代表であり、なおかつ、パソコンに多少はなれ親しんでいるという立場で、きょうは専門家の方々においていただいておりますので、その橋渡しができればと思っております。

きょうのテーマ、この「情報化に親しむ」というタイトルですが、このフォーラムにもいろいろなタイトル、テーマがありました。この「情報化に親しむ」、特に「情報化」というのは、大変これは幅の広い話かと思うのです。恐らくこれはパソコンとかインターネットに関連した話になるかと思いますが、この分野ほど、本当は話の広いものはないと思うのです。

そしてまた、同じ詳しいといっても、例えば昆虫に詳しいとかいうのはあるとしても、それは実生活に余り影響はないと思っておりますが、パソコンになれ親

しんでいると、ちょっと詳しいというと、それは実生活に、今はもう即、反映するのですね。例えば、座ったままで日本中の駅の時刻表もわかりますし、交通手段の乗り合わせもわかりますし、また、住所がわかれば、すぐ地図がポンと出てきたり、それを使えるかどうかでもって随分格差が生まれてきているということで、そういった意味におきまして、これから情報化に親しむということは、親しまないよりも親しんだ方がいいのではないかなというような感じがいたします。

きょうは、お時間を大体三つぐらいに分けて、この膨大な分野でありますけれども、わかりやすい方から入っていきたいと思います。

まず、最初のテーマといたしまして、パソコンとかネットとか、そういった道具、ツールといいますけれども、そのツールとしての利便性、こんなに便利なのだよと、こんなに簡単だったのだよと。昔は言語を勉強しなければわからなかったのですが、今は絵をクリックすればできますよとかそういったところから、こんなに簡単なのだよ、こんなに便利なのだよというところから共通の認識を持っていただければと思います。

そして2番目のテーマといたしましては、次はコンテンツ、内容といいますけれども、コンピューターは、できるだけはただの手段ですから意味がありません。英会話と同じですね。できれば格好いいかもしれないけれども、何を伝えるのかという内容がなければ、ただの道具でありますので、その何を伝えるのかといった、コンテンツといいますけれども、そこら辺の議論をしていきたいと思っております。特にきょうは市の関係の方も大勢いらっしゃいますので、市役所にもいろいろな情報がありますけれども、その情報をどういうところから公開すべきなのか、もしくはデジタル化、電子化するにはどういったところから手をつけるべきなのか、こういったところも市民サイドからいろいろな情報交換ができればいいと思っております。

そして3番目には、これは今、核心かもしれませんけれども、便利なものにはやはりとげがあるということで、例えば包丁も便利ですが、人をあやめることもあります。ダイナマイトもそうですね。しかしながら、包丁やダイナマイトは危険だからといって、それを発明する前の段階に戻ろうということは、まずあり得ないのですね。それとどのようにして安全につき合っていくかといったことを考えなければいけません。そういったところで、また専門家のいろいろな意見が出てくると思いますが、今、国会でも結構もめていますけれども、そこら辺の話になって、そして最終的には、我々はそれを乗り越えて、うまく使っていこうというふうなコンセンサスができればいいなと思っております。

きょうは心強いことに、隣にコーディネーターがもう一人、情報処理のプロの乙津さんがいらっしゃいますので、自己紹介を兼ねて、まずとりあえず、この第一のテーマ、ツール、道具という、この利便性から少しお話を伺えればと思います。よろしくお願いたします。

《乙津》

皆さんこんばんは。市長からちょっと御紹介をいただきました乙津といいます。ふだんは、今、どちらかということ、町会長の仕事が非常に忙しいのでございます。

私は昭和44年に大学を出たわけなのですが、当時、情報処理関係の学部というものは非常にできたばかりの学部です。今のようにまさかパソコンが1人1台いくような、こんな時代が来るとは、その当時はとても思えなかった状況でございます。

計算機というと、非常に空調のきいた部屋にばかりでかい機械がありまして、値段ももう億の単位の計算機で、まさに計算をする機械だったわけですね。それが、たまたまかどうかわかりませんが、私の先生、まだ今、88歳で御健在なのですが、電気試験所にいたころに、計算機は計算するだけのものではないと言い出した、多分、世界で初めての人ではないかと思うのです。その方が、昭和30年代でしょうか、40年の前ですね。計算機で翻訳をされたのです。要するに、英語の簡単な文章を入れると日本語が出てくるというものをつくられた方でございます。

それで、当時、計算機は真空管を使っていたのですが、非常に熱が出るということで、世界で初めてトランジスターを使い込んだ先生でございます。そういうわけで見事に、計算機は計算をする機械ではないというのを実証された方なのですが、今どちらかということ、全世界を見まして、パソコンを含めて計算機がまともに計算をしているよりも、はるかに情報を処理することに使われている方が圧倒的に多いわけでございます。それが、我々非常に助かることに、身近にもう全部パソコンという形で来ているわけですので、小林さんもおっしゃったように、できることであれば、それをツールとして、道具として使えたらいいなと思っているわけでございます。

後ほど時間があれば、ちょっと別の意味で、きょう用意したものがございますので、こんな分野にもパソコンは使えるのだというものを、ちょっとデモしたいと思うのですが、小林さんがおっしゃったように、まさに今、非常に便利なものが世の中に出ていまして、まず時刻表が要らない。何時何分に、例えば神田の何とかに行くには、拝島駅を何時に乗ればいいのかというのが、すぐ即座に出てくるようなものも自分で使えるようになっておりますし、それからもう1点おっしゃった地図の問題も、例えばここが何番地かわかりませんが、福生市本町何番地と入れますと、パッと地図が出てくるようなものも使えるわけでございます。

もう1点、私もよくわからなかったのですが、目の不自由な方が実はこのごろ、パソコンを随分使っておられます。どうやって使われるのかなというのを、後ほど時間があれば、それをちょっとお見せしたいと思っております。

小林さんから御提案の一番初めのツールとして使う件に関しましては、そのようなところでございます。

あとは皆さんの御意見を伺いながら、いろいろ進めたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。



#### 《小林》

どうもありがとうございました。

フォーラムの進め方でございますけれども、先ほど申し上げました三つの分野について少しずつ進めてまいります。話題提供者の方々から話のきっかけをいただきまして、そして皆様方にも御自由に御発言いただきまして、意見なり、もしくは御質問なり、挙手の上、名前をおっしゃっていただければ、どなたでも発言できます。

そしてまた、きょうは市役所の関係者の方もいっぱいいらっしゃいますけれども、特に市に対する質問は今回はなしとしたいと思います。我々市民サイドでちょっと話をしましょうという会でございます。したがって、市の方々も、市民、個人としてどんどん御発言いただいて、一市民としてこう思うとか、もしくは働いている一職員といいますが、こういったものがあつたら便利だとか、そういった市の責任を負わない自由な立場で、ぜひ御発言いただければと思います。

先ほど市長が言われましたように、これは全部、録音されていまして、いずれ活字化されて、恐らくデジタル化されるのではないかと思いますけれども、こういった議論があつたのだなということも、これからの市政に少なからず反映されると思いますので、ぜひ活発な御議論をいただきたいと思えます。

それでは、引き続きまして、話題提供者の方々にお話を伺います。

まず前原さんですが、早稲田大学の理工学部電子情報通信学科助手、工学博士、そして日本学術振興会特別研究員(文部科学省)、こういう方でいらっしゃいますけれども、自己紹介を兼ねて、先ほどのツール、利便性から、少しお話をいただきたいと思えます。また、機械をお使いになるようでしたら、お使いください。

#### 《前原》

どうも、御紹介いただきまして、ありがとうございました。私、南田園の二丁目に住んでおります、

前原文明と申します。

先ほど簡単に御紹介いただいたのですが、私はちょうど10年前に大学を卒業いたしました、大学では電子通信学科という、ちょうど電子的な媒体を使って情報を流通させようということが、インターネットという思想の出た時、現在ちょっとITブームはこけてしまいましたけれども、ITというものがより現実的な目標として定まったぐらいのときに大学で勉強しておりました。

そしてその後、大学卒業後、修士課程を卒業した後は、NTTの研究所で、ちょうど無線通信、今で申しますと、その実用例で申しますと、携帯電話ですとかPHS、あるいはこのごろ急激に発展しました無線LANなどの開発をして、現在、大学の方で研究を進めているという次第でございます。

本日は「情報化に親しむ」というお題をいただきまして、先ほど小林様から一つの議論の軸をいただいたと思うのですが、一つはコンテンツ、もう一つはツールという、その軸がどのように情報化で絡まって発展を遂げているかということについて考えていきたいと思えます。

まずは「情報化に親しむ」ということで、親しむべきものであるのかどうか。ちょっと非常に押しつけがましい、「親しめ」と言うとか押しつけがましいのかもしれないけれども、「情報化に親しむ」ということで、この親しむ意義というものはどういうところにあるのかどうか。

そもそも情報化に親しむことの意義というのはどういうところにあるのか。「情報化」という言葉は、情報というのはどんな場合にでも使えますけれども、今回の「情報化」というのはコンピューターを使った情報、つまり電子情報を使ったものを指すと思えますので、この電子情報化に親しむということの意義というのは、このお題のそもそも論としてどういうものがあるのかどうかということと、情報化、つまり情報を相手にギブ・アンド・テイクをするわけですが、そのギブ・アンド・テイクをするということは、コミュニケーションで通信をするということから、この電子情報を使ったコミュニケーションを考える上の前提といたしまして、これまでのコミュニケーション、人間はどのようなコミュニケーションの手段をとってきたのかというのを振り返って、電子情報というものを考えていきたい。

次に、これまでのコミュニケーションを軸として、電子情報によるコミュニケーションとこれまでのコミュニケーションの違いというのがどういうところにあるのかというのを簡単にお話しさせていただいて、そのようなこれまでのコミュニケーションとの違いとの差から、電子情報化のメリットと、先ほどの小林様、あるいは乙津様からお話がございました今後の課題というところを、簡単にたたき台としてお話をさせていただきたいと思えます。

まずはコミュニケーションでございますが、コミュニケーションというのは、動物は、人間だけでなく、生物、動物は一人では生きていけないので、複数の、人間でいえばAさん、あるいはBさんがそ

それぞれの情報を持ち寄って、そして情報交換をするというのは、これは人間が生きていく上で一番考える余地も無くやっていることだと思います。

このAさんが持っている情報、あるいはBさんが持っている情報、この情報の内容は、多くの場合、異なっているわけです。そして、それらをギブ・アンド・テイクすることによって、例えば豊かな生活ができたり、大きくなりますが、文化が創造されているのではないかと考えるわけです。

そして、この情報をこれからはコンテンツ、先ほどのお話でございました、情報の内容をコンテンツと定義させていただきます。これらの情報の内容をギブ・アンド・テイクする情報の流通の手段として、その道具としてツールが存在し、考えて、いろいろな方法がこれまでとられてきたわけです。

一番簡単な例で申しますと、AさんとBさんが自分のそれぞれの持っている情報を交換する方法というのは、音声で自分の声で近くににいる人に、空気を振動させて届けてあげる、音波で届けてあげるというのが、人間が一番よくやるコミュニケーションの方法であると思います。

その後、今、完全な人間としてのインフラになっております電話が発明されて、音波から、今度はその声を電気信号に換えて相手に届けるという手段が生まれてきました。

このような情報の交換が、今、人間同士では一般的な形態かと思えます。

それでは、情報の交換、情報の流通のさせ方、コミュニケーションツールの、これまでの方法の問題点を考えてみたいと思います。

まずは音ですけれども、声で相手に自分の思っていることを届けたいという場合には、地理的な制約、つまり近くにいないと、少なくとも情報を提供する側とそれを享受する側が同じ空間、地理的に近いところにいると届きませんので、そこに集合しないといけないという場所的な、空間的な制約がございます。

一方、電話ですけれども、電話では、今度は時間的な制約が生じます。つまり電話をする同士が同じ時間を共有しないといけないと。さらには、電話は多くの場合1対1で通信を行いますので、参加人数もこのような場ではなくて1対1ですから、参加人数の制約がございます。

これまで人間がよく使ってきたコミュニケーションする手段というものは、すごく便利だと思われていたのですけれども、実際のところ、このような問題点があったと思います。

すると、それでは、このような問題点があることを踏まえて、では電子情報、今よく話題に上っている電子化をする、電子情報化することによるコミュニケーションというのは、どんなものになるのだろうかというのを考えていきたいと思えます。

まず、先ほどの図と違いますが、1対1の図であったと思うのですけれども、電子情報にいたしますと、まず先ほどの地理的な制約がなくなります。そしてさらには、電話で問題点となっていた参加人数の制約も、情報を電子化することによってなくな

って、さまざまな制約を乗り越えたコンテンツの効率的な格納と流通が可能になります。

つまり、コンテンツを持っている側からすれば、そのギブ・アンド・テイクを流通させる量が莫大にふえる可能性があるということで、情報を電子化する、情報というのは変わりませんけれども、その情報を電子情報化することによって、これまでのコミュニケーションよりも格段の利便性が出てくるのではないかと思うわけです。

このように、電子情報化をするということはすごくメリットがあります。情報を莫大に流通させて、さまざまなツールとして電子情報化することによって、さまざまなコンテンツを発信し、それで受信することができるのですが、一つ問題としては、1回情報を電子化してしまいますので、電子化した情報と人間がわかる情報、人間がわかるコンテンツとの橋渡しをする情報の翻訳機が必要になるわけです。それが、今、爆発的に普及しているコンピューターになるかと思えます。パソコンですね。

先ほど乙津様からのお話がございましたように、昔はこのコンピューターというものが非常に、真空管とか、ものすごい物理的な重量と、すごく大きく空間的にも占有したもので、たかだか今のコンピューターの数十分の1ぐらい、数百分の1、数千分の1、ちょっとよくわかりませんが、本当に少量のものしか扱えなかった昔と比較して、このコンピューターが急激に進歩したおかげで、一人ひとりがその情報の翻訳機を手に入れることができるようになったということですね。そして、この情報の翻訳機を使って、自分自身の情報を電子情報化し、そして電子情報化された情報を自分自身の、人間にわかる情報にかえることができるようになったということです。としますと、この情報の翻訳機というものを、電子情報化をするに当たり、使いこなさないといけないという問題に直面いたします。

そこで、電子情報化を進めるということは、どうということなのか。先ほどからお話しさせていただきましたメリットといたしましては、空間や時間を超えて多様かつ大量の情報交換が可能になるでしょう。あと多様なサービスを楽しむことができますので、先ほどの乙津様からもお話がありましたように、例えば時刻表を簡単に調べることができたり、そういうふうな利便性が生じてくる。すごく電子情報を使うことによって利点が生じる。

ところが、課題といたしましては、人とコンピューター、つまり情報の翻訳機を取り扱わないと達成されませんので、その人とコンピューターの間インターフェースと申しますけれども、その間の親和性というものがこれからの、親しんでいかないといけないということが課題になるのではないかと思います。

あとは、大量の情報が飛び回りますので、とても自分自身にはメリットを生じない情報とか、有害な情報であるとかいうものも出てくるわけです。それが押しつけられる可能性もあるわけです。今、携帯電話でよくある、何か出会い系を押しつけられたとか、何かそういうもので問題になっているようなこ



とがございましたけれども、そういう情報の取捨選択が必要になるのではないのでしょうか。

最後に、情報を発信するわけですから、それも大量の人たちが参加している中で発信するわけですから、自分自身の情報をどう守ったらいいか、セキュリティの問題も生じてくるかと思えます。

ということで、電子情報化、つまり電子情報化に親しむということの意義と、そのメリットと課題について、以上、簡単にお話しさせていただきました。ありがとうございました。

#### 《小林》

どうもありがとうございました。大変わかりやすく、何かNHKの教育テレビを見ているような感じで、大変よくわかりましたけれども、きょうやっている行動はこういうことだったのかと、改めてわかりました。(笑い)引き続きまして、杉山さんを御紹介します。

実は、きょうの西多摩新聞にこんなに大きく出た方でございますけれども、杉山有限会社という呉服寝具販売の店をやられて、なおかつパソコンユースウェアサービス有限会社の代表でいらっしゃいます。コンピューターの達人であります。そしてまた、公民館主催のパソコン講座の指導者でもいらっしゃいますが、きょうたまたま載った新聞は、こういったネット販売が好調であるということで、お着物とか、こういったものを販売する。

私どもも、うちの大多摩ハムも、そういうホームページで販売していますけれども、大体1日に1件注文があるかどうかかなのですね。でも、年間300件注文があればいいかなと思っているのですけれども、杉山さんのところはもっとすごく注文が来ているらしいのですね。そのノウハウは秘密らしいのですけれども、(笑い)そういったことで、大変伝統的な部分と、それから新しい部分をミックスして、才能をお持ちの方でいらっしゃいます。

また杉山さんから、今までのポイント、まずツールの利便性から含めて、少し御紹介かたがたお願いできますか。

#### 《杉山》

どうもこんばんは。杉山でございます。熊川に住んでおります。私は特別これといった、何も人に自慢するようなことはありませんので、ただ一生懸命、毎日生活して生きているということです。

ただ、きょうのテーマが情報化ということで、それなりにちょっと、コンピューターは15～16年、もっと前になるのでしょうか。アマチュア無線が31年目になりまして、ずっと現役で免許も切らさず、毎年電波を出し続けています。その延長線上で、携帯電話が出る前にはアマチュア無線ですけども、今、リピーターというものがあまして、まさに携帯電話の中継機です。あれのできる以前のところで、電波伝播試験で飛び歩いたりとか、それから今、携帯電話はポケットという形でやっていますけれども、それを無線で、やはりまだ日本語が対応していないころ、ポケット通信というものにも参加して、

日本語をどうやったら送れるのかかかって、一生懸命送って文字化けしたりとか、そんなコンピューターで遊んでいたのです。

そんなこんなの延長線上で、コンピューターをばらしてみたり、組み立ててみたり、それからプログラムをいじってみたりとかというようなことで、幅広くプログラムをやったり、コンピューターをつかったり、いろいろ組み立てたり、はんだづけしたりとかというのを今でもやっているのですけれども、そんなことで、ただコンピューターが皆さんよりも精通していると。

たまたま、せっかくこんなにコンピューターが好きなので、ひとつこれで生活の糧に、少しでももうけられないかということが、きょう新聞に載って、たまたまいい方向にしているものですから、紹介を受けたということでございます。

情報化ということと言いますと、情報ということを一応広辞苑で調べたら、生きていく上の知恵だということですから、情報というものはすべて「私は、生きよう」ということだと思えます。私は福生で暮らしているのですけれども、福生で生きていこうかといったときの、自分が決断を下したりとか、自分の方向を決めようかといったときの、その知恵、知識、これが情報です。

では、情報は何かなとって、今、インターネットがブームですが、コンピューターを使ってインターネットで情報を集めると、かなりのところまでわかるわけです。どういう種類の情報があるのかなといったら、ほとんどが得したりもうかたりする。損する情報ってないのですよ、実際は。結果としてはあるのですけれども、発信する側も、悪意を持ったり、それから善意であったりしても、必ず得する情報なのです。全部、得する情報ばかりです。ただ、安易に信じると、得するつもりが損したりということになりますけれども、ほとんど情報自体は得する、それから生活が便利になるという、これが情報だと。ましてやコンピューターネットワークでの情報だと思います。

私も音楽をやるのでわかるのですが、つくる人が、私がいいと思って情報を発しても、受け取る側が、私が意図したのとは全然反対の方向とか違った方向に解釈をして、それがその人にとって生活にプラスであったり、人生にプラスであればいいわけですけども、プラスに作用しないときだってあるわけです。だけれども、私は責任取らないですよ、大体が。今のその情報というのは責任を取らないのです。その受け取った人がいいと思って、みんな得する情報を流しているわけで、結果としてその人が何か損をしても、その人の責任になる。したがって、その得する情報を、さっきおっしゃいましたように取捨選択する目を持ったりとか、やはりそのあたりのところをきちんと学ばないと、学ぶ以前に体験がもしれませんが、体で覚えるのかもしれない、体で覚えたりとか、そういうことをやらないと、やはりなかなか難しいのだろうと。

ただ、今までが、では情報を得よう、生きるための情報を得ようと思ったら、電車に乗って立川へ行

ったり、東京へ行ったり、福生なら図書館へ行ったり西友へ行ったりということで済んだのですけれども、ところがインターネットを使えば、「では、ちょっと美術品を見たいな。日本に今度スミソニアン博物館が来るそうではないか。」そうすると、アメリカのホームページへ行ったらその美術館の情報を見たら、あらかじめ予備知識としてずっと、絵も見られるし、説明も見られるのですよ。そういうふうな使い方とか、いろいろその本人がどういうふうに生きようかなという思いがまずあれば、得する情報というものはいっぱいある。

ただ、無料ですから、ただほど高いものはないということがありますので、無料でどうしてその情報を提供しているかという裏も知るべきで、やはり悪意を持っている人もいます。では、今度はさらに、皆さんはどうか知らないけれども、私はレベルが低いから、無料で自分の知りたいことの9割ぐらいは知ることができるのですけれども、もっとレベルの高い方は、その程度だと当たり前のことですから、やはりそれ以上の方はお金を出して情報を得ると。それはもっと高いレベルであって、もっと奥深いものが手に入るということになります。

例えば、つい2～3日前の読売新聞に、インターネットの人口が昨年の政府の発表した「通信白書」と数字が随分、1000万から違うと。民間で発表したものがあるというので、それが載っていたので、すぐにその場で調べましたら、すぐ出てくるのです。これが民間の発表した「インターネット白書2002」ですけれども、ついこの間、発表になった。これはプレス発表の分で、いわゆる即、発表になったのです。プレス発表でこの程度までは見られるのですが、これよりさらに詳しく知りたければ、5000円程度払って買えと。これは民間ですからそうすけれども、これ以上のものが欲しければ買ってくださいと。それから政府の「通信白書」というものは、買えばきっとこんなに厚いのですけれども、このCDに入ると、CDのうちのこのぐらいの輪におさまってしまう。すぐそうやって、物の10分で調べることができる。

そういったふうに、自分が知りたいなと思ったときにすぐ調べることができる。公のもの、とりあえずこの情報は正しいと思って、私は信用しているのですけれども、どこかで改ざんされたとか、ホームページがハッキングされて書きかえられたとかという報道はありませんから、今のところ大丈夫だろうと思っているのですけれども、そうやってすぐ調べることができる。

そして、それは私が生きることに関係に立つかどうかというのはわからないのですけれども、ただ、知らないよりは知っている方がいいということでして、そういったインターネットを通してコンピューターをさらに近いものに使いこなしていくということが、今はとても便利になっています。

ただ、今はコンピューターですけれども、道具としてはまだ、携帯電話もありますし、もっと小さなポケット型のものがありますよね。今後、そういったものに普及していくのだらうと思いますけれど

も、そういった道具をどうやって使いこなすかということ。歩きながら見たりとか、そういうこともできるだろうし、移動先で見たりとかということもできるだろうし。

そういったときに、ありとあらゆる人がその情報を発信するといいますが、この間も友達と話していたのですけれども、先輩の皆さんも含めて、日本ではほとんどの方がサクセスストーリーを持っている。皆さん全部成功者なのですね。失敗したという人はいないのです。成功者だから、その成功者の方の情報というか、自分なりのものがあるので、それを一人ひとりが何らかの形で自分は人にしゃべりたい、伝えたいというものがあれば、ホームページとか、電子情報を利用することで発表ができることがある。ただ、どうしてもそこにコンピューターというものが入ってきますので、それを何か上手に、人に任せずに自分で使う。そうしたらきっと何らかの反応があって、自分のサクセスストーリーの全容を一人でも多くに伝えることができると思います。ツールとしては、そんなところですよ。

《小林》

どうもありがとうございました。専門家の皆様、大変おもしろいお話、興味深いお話をありがとうございました。

ここで専門的なところから一般的なところへ下げていきたいと思うのですけれども、皆さんに、どの程度なれ親しんでいらっしゃるかということ、ちょっと伺ってみたいと思うのですが、御自身でメールを日常的に打たれる方はどのぐらいいらっしゃるでしょうか。iモードも含めてです。なるほど、ありがとうございました。

それからあと、物を調べるときにパソコンを使ってインターネットにアクセスするという方は、どのぐらいいらっしゃるでしょうか。どうもありがとうございました。

そのあたりで、使えば使うほどわかっていく、それでまた、本当に触ってもみないと、本当にわからないわけで、なかなか今までの話も、ちょっと御理解しにくい部分もあったかもしれませんが、そういった一般的な方々の御意見を少し伺えればと思うのですけれども、よろしかったら、いかがでしょうか。そういったことに今使われて、またどういった利便性があるかどうか。

《Aさん》

Aと申します。実は私、1年のうちの5カ月ぐらいをニュージーランドの方で過ごしているのですけれども、今までは手紙のやりとりが多かったのですけれども、電話もあります、時差とかいろいろな面で、Eメールでいろいろな国の方たちと交信できるというのは非常に便利で、助かっていると思います。

それとあと、向こうにいまして、いろいろな日本の情報を知る場合にも、簡単に取り出すことができると。ラッキーなことには親戚がいますもので、日本語の通信もできますし、不慣れな英語の文章でも

何とかやっけていけると。非常に、その国だけではなくて、その国でまた他の国の方たちともいろいろな交信ができて、非常に助かっているところです。

そういうところです。

#### 《小林》

どうもありがとうございました。

先ほどもありましたように、機械自体がだんだんと小型になって、だんだんと我々に近づいてきているという部分がありまして、通信手段も、昔はモジュール信号を覚えなければ通信できなかったものが、もう今では「はい、もしもし」でだれでも、子どもでも、小学生でもできるようになったわけですから、インターネット、もしくはパソコンの方がこれからどんどん近づいてきますので、今やっけていられない方も来年はやっけていられるかもしれないですね。そういった心構えで少しずつやっけていければ、大変敷居が低くなっていくのではないかなというふうに思っております。

それでは、次のテーマの方に少し移ろうと思うのですが、そういった利便性がわかりました。そういうことで、次にはそのコンテンツ、内容の話でありますけれども、その中身、何を送るのか、そしてまた、こういったものを我々は求めているのか、いろいろな見方があるかと思うのですね。

それで、特に今回は、福生市主催のフォーラムですが、今、日本各地で電子自治体、もしくは行政の電子化というものが進められています。危うい部分ももちろんありまして、今、国会でもいろいろとやっていますけれども、そういったリスク、危うさの方は、ちょっと次の第3ステージの方に置いておきますが、こういったコンテンツ、もしくはこういった内容のものを我々市民が求めているのか、そういったことを少し御議論いただきたいと思っております。

実はこの前、フォーラムのこの前のシリーズの時に、私は国際化のテーマの際にコーディネーターをやらせてもらったのですが、いろいろな外国の方がいらっやいて、こういった行政サービスが欲しいかという、やはり今、市役所は英語と中国語と韓国語でしたっけ、それが完備されていますが、それ以外、例えばアラビア語とか、イランの人たちが困ったみたいな感じですが、そういった言語の翻訳というものが、恐らく先ほどの話によりますと、コンピューターはツールとしてはいいのではないかなと思うのですが、しかしながら、そのツールとしてのコンピューターがあっても、その中の何が電子化されているかいないか、電子化されていなければ、ツールがあっても見られないのですね。

話によりますと、今、市役所では予算も人員もかけられていますので、少しずつできるところから電子化していきこうと、もしくはデジタル化していきこうという流れはありますけれども、やはり市民の代表としては、議事録、こういったものも大事なもので、今、進めていただいていますけれども、やはりそういった外国人の方々に聞きますと、そういうところも大事だけれども、例えば昼間働いて帰ってきて、

夜中に学校のことを聞きたいというときにどうしたらいいかとか、そのような本当に日常茶飯なレベルのことを知りたいというような意見もありました。

多分、人それぞれニーズは違うと思うのですが、そういったことで電子行政を含めて、そういった内容を含めたコンテンツ、この辺のことをちょっと伺いたいと思いますけれども、たまたま私が読みました、こういった本がございまして、これは「地方自治情報誌」というのですが、これにはマイクロソフトの社長の方が寄稿しているのですが、それを見ますと、「住民が望む電子自治体とは」と書いてあるのですね。つまり、成功のかぎは住民本位と競争であるというふうに書いてあります。つまり、向こうの市でもやっけたからうちもやろうとかいうのではなくて、住民が何を求めているのかといったことを、多分、市の方も聞きながらいると思うのです。そのあたりを我々がやはり決断し、取捨選択して優先順位を決めなければいけないのではないかなと思っておりますが、そのあたりの話から、乙津さん、いかがでしょうか。何せシナリオがないものですから。（笑い）

#### 《乙津》

電子自治体に関しましては、私、前の石川市長がたまたま隣組、まさに前に住んでおられますので、あの方はちょっと、いないから言うわけではないですが、キーボードも触りませんわね。（笑い）パソコンを見ているところを見たことがございませんので。

それが、次に野澤さんという方が市長になられて、私がびっくりしたのは、個人でホームページを持っておられて、随分昔から自分の御意見をそこに載せておられたのです。これだと思ひまして、市長になった途端に、ぜひとも市役所の事務を電子化して、もっとオープンにしてほしいというのをチクリチクリと言っているのですが、いかにもこれは非常に大きな課題でございます。私は、先ほど市長から御紹介いただきましたように、個人情報保護条例審議会の委員をやっておるものですから、個人情報に関しましては、非常に今、興味を持って、いろいろな情報を集めているのですが、やはり知られたくない情報というのは皆さんございますよね。まあ名前と生年月日ぐらいはどこにでも書いてしまっているので、ばれてもしょうがないかなと思うのですが、私が今、こんなところと言う話ではないのですが、もう6年も病院に通っていて、何が悪いとか、そんなのは人に知られたくない。それから、どこにどんな預金口座があって番号はこうだなんていうのは、他の人に知られたくないですよ。ですから、そういう情報は、やはりぜひとも守らなければいけない。

よく私、審議会の席でも申し上げるのですが、仕組み上守らなければいけない、それから機械を入れて守るような装置を入れる、そういうものは表向きできるのですが、一番肝心なのは、その情報を取り扱う人がどう考えるかなのですよ。ですから、よく

何千人、何万人分の、例えば健康保険の情報が漏れてしまったという事件があるのですけれども、あれは計算機のシステムとしては、システム会社が納めたときには、それなりにセキュリティ、専門用語になってしまうのですが、ほかに出ないような仕組みは入っているのです。そしたら、何で漏れたかという、つまらないことなのですね。

その保険のための情報を計算機に入れなければいけないですね。それは大体、今、人間が打って入れているのが実情なのです。それを、福生市役所はやるかどうかはわかりませんが、大体、入力専門の外注会社へ出すのです。そうしますと、その紙がそのまま打つ方に行きますよね。入力された方がフロッピーか何かに入れて持ち歩くわけですよ。だからそれがこぼれてみれば、もうおわかりだと思うのですが、そのフロッピーディスク1枚に何千人ものデータが軽く入ってしまうわけですよ。そういう意識をまず皆さんが持っていたらいいかなと、なかなかそういう便利さの、それは次のテーマにあるのですが、そういうことを考えなければいけない。

ただ、私も市の情報をいろいろ知りたいというのはございます。たまたまきょう、市役所の方にある要望書をお出しいたしました。そこに書く文面で、あ、こういうのは何だったかなと。具体的に言いますと、福生市の町会加入率を知りたかったのですよ。先週、多分「地域」のテーマで、このフォーラムで話が出たとケーブルテレビで見たのですが、そういう情報なんていうのは知られて構わない情報なのですから、それが今のところ、市のホームページを見ても、当然何も出ていないと。何ていうのですか、知りたい情報がやはり見られるようにしたい。

一番初めに手取り早く、市議会の議事録をまず公開したい。だけれども、あれ、ネットで公開されても、ただそれを出されても、あんな厚い議事録を読む気もしないでしょうし、目的があればそれを調べるのでしょう。そうではなくて、普通に使う情報をやはり外に出していただきたいなと思っているわけですね。

それと、情報化に関しましていろいろ、先ほど杉山さん、皆さんがおっしゃるように、インターネットで情報を調べてみますと、やはり議会でいろいろ議論されるわけなのですが、相当お金がかかるわけですね。その情報化というか、設備機器もそうですし、ソフト購入費から、かかるわけですよ。かかった分、元が取れるのかということですね。

例えば、市役所の職員一人ひとりにすべてパソコンを与えてネットでつないだ。非常に表向きは効率化が進むはずなのですね。例えば何かというと、「何々課の何とかの資料が欲しい、お前ちょっと行ってこいよ」というのは、その机にいて見られるはずなのです。ということは、時間計算すれば、それこそ今、福生市なんて、なんてと云っては失礼ですね。庁舎が分かっているものですから、例えば本庁から教育委員会へ行くには車で行ったりしますよね。それを考えると、コストは非常にかかっていると思うのです。そうしましたら、そのために何人職員が浮くかという話が、どうしても出てきてしまう

わけですよ。

だから、それがいいかどうかは別にいたしまして、やはり効率的に仕事をする。民間はもうせざるを得なくてやっているわけですね。たまたま私の後輩がコンサルタントをやっております、要するに、経営を工学化したり、エンジニアリングにしなければだめだということまで、今、世の中は来ているわけですね。

ただ、私、こんなところで言っているかわからないのですが、それがどんどん進んだ時に、人間はどうなるのかという不安も、実は裏にございまして、きょうも市役所に行って、直接面談しているいろいろお願いするわけですよ。それが全部電子化されたから、もうお前、来なくていいと言って、果たして意思が通じるかという、そういう面も外に向かっていると思いますので、そこまで行き過ぎないように、ぜひとも進めていっていただきたいなと思うわけですね。

ですから、携帯電話にしたって、ここであえて聞きはしませんが、相当の方が今お持ちで、御利用になっていると思います。もうまさに1人1台、携帯電話をお持ちだと思うわけですね。ですから、もう将来、IDカードなんて要らなくて、携帯電話がおれだよというように、実は裏ではなっていくのではないかなと、私、思っております。

ですから、話がちょっと飛んでいきますけれども、行政に対して、電子化はもうこれから避けられない。ある意味では効率化という意味で避けられない。それから今はやりのオープンな行政、政治ということに関しましては、途中の情報はすべて見せる。住民主体型といいますか、要するに議会にしても、住民の代表である議員の方が議論されるわけですが、それが家にいながら見られるような状態になっていくと思いますし、せざるを得ない状況ではないかな、なっていくのではないかなと思っております。

皆様方も多分、市役所にある情報で知りたい情報、知りたくない情報というのはあると思います。ですから、そこをうまくコントロールして、知りたい情報、知らせていい情報はどんどん出せるような仕組みをつくっていただきたいと思っております。

《小林》

どうもありがとうございます。

それでは杉山さん、いかがでしょうか。各、いろいろな地方も広く御存じのようですよ。けれども、地方でそういったことで先進的なところがあるのか、もしくはどういったプライオリティーで進めているのか、もしも御存じでしたら、教えていただければいいかな。

《杉山》

いろいろなコンピューターを見ればあるのですが、けれども、この間たまたまですけれども、10年来とっている初心者入門のための「日経パソコン」というパソコン雑誌があるのですが、その中に「E都市」というものがありまして、福生市も載っています。



した。コンピューター化、IT化された都市の中で福生市が何番かなというもので、1番が三鷹市で、全国単位ですけれども、とっている人は見たかもしれません。つい先月の中ぐらいですけれども、福生市は何位かなと思って気になっていたものですから、アンケートですから、余り大したことはないと思うのですが、それでも気になって見ると、福生市は全国で477番、東京で38位ですね。21区21市、42の中の38位というようなことで、だからいけないということではないのですけれども、下にまだ羽村市とかあきる野市がありますので、そんなに心配することはないと思います。(笑い)近くでは、すぐ上に国分寺市、国立市、日野市がいますけれども、そのあたりくっついていきますから、大体横並び、一線かなという気がしますね。

多分、アンケートで取ったのだと思うのですが、そういう全国のものがありまして、どの程度、ホームページを開いているとか、庁内のパソコンのグループウェアを使っているとか、情報化の計画とか、そんなもので、とりあえずIT化を進めているというランクには載っているということですので、そんな発表があったので、つい気になって見ていました。

もう一つ、市がどんな情報を発信するかというようなこともあるのですけれども、今おっしゃったように、いろいろな、議事録も含めて公開というのは、いいとは思いますが、私はいつもホームページを見たりインターネットを使っているのですが、大変気になりますのは、やはりハッキングが大変気になります。技術的にも、私自身は個人的に大変、興味があるのです。興味はあるけれども、私はやりませんけれども、技術的な興味は大変あります。

やはり発信するときに、それがPDFだとか、そういうグラフィックな形になっていて公開されるのなら、改ざんされる恐れはありませんけれども、今、ホームページのHTMLの言語で書かれたりすると、改ざんされる可能性はめちゃくちゃ多いわけですから、毎日職員が1日3回、改ざんされていないかチェックをして、常時、最新のホームページと自分のところの置いてあるのを見比べて、改ざんされていないかと。特に数字とか、そういったものをやはり悪意を持って意図的に改ざんしようと思えば、福生市は皆さんに得する情報として発信しているのに、その数字のところをちょっと書きかえて2~3日放っておいたら、その間に何人の方が見る。

そういう可能性としては、今は可能性としてはありますし、ごくごくそれは、すごく難しい技術ではなくて、そんなに大した技術ではなくてできると。ちょっと勉強した人だったりすると、すぐできると。ただ理性があるかないかの差だけですから、そういう意味では、その情報を公開するときの形式とどういいますか、そういったものが、写真とか、そういった部類での方法だと改ざんの余地はないわけですので、そういったものも一つの方法かなというふうに思っています。

《小林》

どうもありがとうございました。

やはり情報公開すべきかどうかと迷ったときには、すべきものはすべき、要するに議論は公示すべきという考え方だと思います。話が飛ぶようですけれども、福生市商工会でも去年、実は40周年の記念式典がありまして、そこで商工会の活性化論文というものを募集したのです。37編集まりまして、大学とかシンクタンクとか、かなり優秀な方が集まりました。そこで優勝者の方には100万円、準優勝は50万円とありまして、1位、2位、3位の方々を含めて9位の方々までの論文を、今、実はホームページで発表しているのです。商工会にはホームページはあるのですけれども、あそこは一つ更新するごとに、何かすごくお金を取られてしまうので、今は大多摩ハムのホームページの隣でやっているのですけれども、でも、それでも1位の論文だけでも1カ月に700人は読んでいるのですね。黙って読んでいるのです。別に見られて困るわけではないのですけれども、お金も払っているものだから、これはやはり隠した方がいいよという議論もあったのですけれども、しかしながら、みんなで議論しようよということで、今、公開しているわけです。こういった流れかなという感じがします。しかし、ああいう膨大な論文も、初めからデジタルで応募してくれたからできたのであって、あんな何百枚もの論文を手で打っていたら、もう全然追いつかないですね。

それが恐らく、その状態が今、福生市役所だと思うのです。もう膨大なデータがある、それでまた今までに膨大な議論がある。それをどこから手をつけていいかという、そういった部分が本当に神のみぞ知るということだと思ってしまうのですが、そのあたりのプライオリティー、優先順位は多分めいめい違うと思うのですけれども、そこについて何か御発言、御意見があったら、ぜひお聞かせいただきたいのですが、よろしくお願いします。

《Bさん》

長沢のBと申します。実は、さっき手を挙げておっしゃったのですけれども、私、今現在はもう退職してしまっていて、ちょっとその反動で、自分のホームページも何もつくらなくて静かにしています。

と申しますのは、今、先生方もおっしゃったように、たまたま私、皆さん、御存じの方もいますけれども、横田基地にもう40年も勤めていまして、コンピューターが入ったその日から仕事にコンピューターを使っていました。

それから、先ほどどなたかからのお話で、Eメールなんか、もう何ていいますか、朝、仕事が始まる前ですね。とにかく仕事が始まる前に全部読みまして、これはほとんど世界中から来ていますけれども、読みまして、それでそれらに対する大体のこちらのリアクションというか、答えをつくっておきますね。そうしますと、もう恐らく仕事にならないほどたくさん、朝9時から10時までに読まないといけないのです。私が言ったわけではないのですけれども、アメリカ人の言うのには、これはガーベイだと。すな

わちごみだと。こんなのは全部読んでいたのでは、お前、仕事にならないよと。でも読まない、その中にはいいものもあります。こちらに関する仕事もありますからね。

そのほかに、Eメールのほかに、先ほどおっしゃっている、これはこういう仕事に関する情報をアメリカからとか、まあ日本からも、とりますね。これまた膨大で、自分の欲しくないものがいっぱいある。またガーベイですよ。前原先生に悪いのですけれども、そういう取捨選択といいますが、そういうことをしていますと、本当の仕事ができなくなってしまうのです。

それが、今、乙津先生もおっしゃった、入れる方がよく考えて入れてくださったのでしょうかけれども、一体誰に向けているかという、みんなに向けているでしょう、めったやたらと。そうすると、選ぶ方してみれば、全部読まなければいけない。これはどうでしょうか。

そんなことで、ある意味では疲れ果てて、このごろコンピューターを見るのも目が疲れます。それからもう一つ、コンピューターを使う方はコンピューターに頼って、もちろんワープロでもそうですけれども、大変偉い方でも同音異語がいっぱい入ってきますね。昨日、おとといですか、私は東京の方で先生方と同じような方とお会いして、子どもたちが、子どもたちといっても青少年ですけれども、これからアメリカ人とオリエンテーションするのに、先生が書類をつくってくれているのです。その先生がコンピューターを使って、「意義がある」と書いているのですよ。「異議があったら」というのに、それは異なる議ですよ。それを「意味がある」の「意」と書いている。「あ、先生、ちょっとおかしいのではないですか」と。工学系の先生は、そういう先生がよくいらっしゃいますね、悪いけれども。(笑い)

そんなことで、先ほど読売新聞とおっしゃった。読売新聞、それから朝日では覚えていないですけれども、産経あたりは、何しろ時々、もう吹き出すようなものがありますね。そんなことで、コンピューターとかワープロを信用し切って仕事をなさっている方に、吹き出すような間違いがよくあります。ですから、私、そういうことでも、コンピューターをなさっている方はすごく偉く見えるのです、私には。ですけれども、ある時、何だ、こんなことをしているのではないかと、(笑い)そういうわけです。

《小林》

どうもありがとうございます。

確かにコンピューターは便利ですけども、いろいろなごみが多いですよ、ネットでもね。ですから今、多分、検索エンジンの中でも、そういうごみを余り捨合わないところがだんだん淘汰されて残ってきている。ロボット系だったらGoogleとか、もしくは人力系だったらYAHOOとか、そういった淘汰が進めばもう少しよくなるかなと思います。

あと、ごみメールは、ちょっといっぱい困ってしまいますよね。ましてや英語でもらうと、私なんかは読むのに時間がかかってしまうので困ってし

まうのです。

それから、コンピューターに頼り過ぎるというのやはりありまして、電源が抜けただけでも、本当にバーンと大変なことになってしまいますしね。そういうことでもって、余り頼ってはいけないというのは本当によくわかると思います。

さて、ほかにも御意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。はい、どうぞ。

《Cさん》

立ってうろろしているのは、ちょっと腰が悪くて、このいすは後ろへ少しひっくり返っていますでしょう。私はちょっと腰を痛めていて、このいすは腰を痛めている人には悪いという(笑い)、まあそれは単なる話でありまして、Cと申します。

今、Bさんのお話を伺っていて、前原先生は御承知のとおり、私、理学系の化学をやっておりますが、工学系の論文が多いのですけれども、(笑い)そういった、要するに仕事をする上でいろいろな情報を、すなわち文献を検索しなければいけない。そうしますと、実はほとんどが有料でございまして、1本の論文当たりえらく高いのです。そこでキーワードというものがあって、そのキーワードはたくさん入れれば入れるほど精査されて出てきます。

そうすると、きょうのフォーラムで必要なことは、私も市民にとって欲しいものは何かというキーワードをお互いにたくさん出し合うといいのかな。そうすると、市はどれを優先してつくっていったらいいか、それでそのうちに、非常にマニアックな市民が欲しい情報もできるようになると。要するに、市のお仕事優先順位をつけてやれるかなと。そのあたりを前原さんあたりが少しリードしてくれるといいかなという提案も含めて、きょうは皆さんから逆にキーワードを少しいただければいいのかな、なんて思いました。

《小林》

どうもありがとうございます。前原さんはちょっと取っておきまして、(笑い)何かそういうキーワード、もしくは、これからこういうところをもうちょっとやってほしいとか、せっかくですから、どんどん御発言いただきたいと思いますけれども、何かございますでしょうか。こういったものを電子化すべきだ、こういったものを公開すべきだ、こういったものから手をつけるべきだ。予算も人員もかけられていますから、この際、皆さん、いかがでしょうか。

では、前原さん、いきますか。そういったことではいかがでしょうか。公開もしくは、そういう電子化のプライオリティーの話でございますけれども。

《前原》

私は行政の方はよくわかりませんので、学校の方でいつも仕事をしておりますので、大学の方では情報化といったときに何かから手をつけ始めているかということ、ちょっとお話しさせていただきたいと思います。

まず情報化を使って、つい4年前ぐらいから、私は早稲田大学にいますので、慶応大学と衛星回線で結びまして、講義を同じ時間に早稲田側と慶応側で先生を立てて、それで衛星回線ですね。実際には東京と横浜なので、余り衛星を使う意味はないのですが、そこで授業の交換をして、リアルタイムで同時にやったのですが、すごく学生には好評だったのです。

どういう点で好評だったかと申しますと、まずは、すごく競争意識が沸いてくるようです。同じぐらいの年代の人が、例えばほかの大学でどういう講義の受け方をしている、どういうところに興味を持って、どういうところに質問が行くのかとか、どういうところが一番興味の点なのかというところが、村とか、そのグループを共存することによって、すごく活性化するというのがあります。これも一つの情報化のメリットなのかなと思いました。

あと、学校で一番重要なのは、市の行政の中で何を公表するかということと似てくるかもしれませんが、成績というものが、学校では学生の成績を管理するというのは極めて重要なこととございまして、その成績というものも、これまでというのは紙の答案を書いて、そして先生によってはどういう評価方法をして、どういう点数のつけ方をしてというところが、先生個々に違っていたり、先生個々にそれを公開しなかったり、したりということがあったのです。

ところが、情報化、電子情報を使うと、それが結構簡単に、プライバシーを守るところは守って、その成績を公開するところはどんどん公開すると、すごく逆に勉強する、やる気が沸いてきたとか、あと、これから自分の努力目標が出てきたとかということがございました。

やはりどういう、先ほどの話でもございましたように、やはり何を優先してやるかというのが、学校でいったら、多分、その学生の成績というものが一番、トッププライオリティーで来ると思うのですが、では、市にとって、その下に市民がいるわけで、どういう情報を、みんなではなくて、白書とかそういうことはみんなに公開すべきですが、逆に個人個人、1対1でどういう情報を市民が欲しくて、そして市から何ができるのかというものを考える方法もあるのかなと思ったりいたします。

《小林》

どうもありがとうございます。

大変、奥行きが広い話でございますけれども、きょうはこれをきっかけにいたしまして、また皆さん、自由にお考えいただいて、こういった分野、一番、市の方も必要な情報でございますので、また別の機会にどしどし出していただきたいと思っております。

3番目のテーマに入りたいと思いますが、いろいろここにいらっしゃる専門家の方々と話をしていますと、恐らくこれが一番大事なのではないかなという話になってきました。

私なんかは余り詳しくなかったのですが、便利だ便利だと、そちらの方で喜んで使っていましたけれども、

さっき控え室で話を伺っていましたら、大体の情報はもうマイクロソフトとか、あちこちに行ってしまうのだよと。情報はもうバレバレなのだよと言われて、ああそうか、私がどこを見たかもバレバレなのだよと思ひまして、ちょっと泡食ったのですが、そういう個人情報といいますが、中身が随分筒抜けに出ていってしまっている部分があるようでございます。

そのあたりをわかりやすく、杉山さん、お話しただけですしょうか。セキュリティの問題からお願いいたします。

《杉山》

パソコンを使っている方もたくさんいらっしゃると思うのですが、セキュリティ、ほとんどの方が、9割以上がマイクロソフトの「Windows」というソフトを使ってパソコンをやっているのだと思うのですが、それでお、インターネットをやっているという人が多いのだと思うのですが、だからこそ、私ももう5～6年前ぐらいからパソコンの導入のお手伝いをしたりとか、相談に乗ってあげたりとかしてはいたけれども、その前のベーシックMS-DOSのときにはちゃんとユーザー登録して、そうしないとサポートも受けられないし、バージョンアップのお知らせも来なかったものですから、ちゃんと私もMS-DOSのときにはユーザー登録したのですが、Windowsになってからは一切、ユーザー登録をしたことがないのです。

それと同じように、私、何十人もの方とコンピューターと一緒に買いに行っても、ほとんどの方はもうWindowsが入っているパソコンはユーザー登録しない。では、どうすることになったかということ、今、一番新しいWindowsのXPについては、ちゃんとユーザー登録をしないとコンピューターが動かないようにしてしまおうではないかという発想がありまして、ユーザーの囲い込みもそうなのですが、いわゆる認証方式というものがあつたというふうに乗っているのです。ユーザー登録がないから、どんな方が何を使っているかわからない。でも、とにかくコンピューターとソフトだけは売れている。

それがほとんど、例えばインターネット、私のところのホームページもそうですが、インターネットの来たときに、一応どんなOSを使っているのか、それからそのOSのバージョン、それからいわゆる、皆さんインターネットエクスペローラードと思うのですが、いわゆるブラウザと称するソフトはバージョンのどの程度のものを使っているのかとか、それはもう普通に、何ていうのですか、こういうふうにはコマンドを書いたら、それは全部できますよというふうに公開されているものですから、そのぐらいまでは何の知識もなくデータとして取れるようになってきているのです。そうすると、きのう見た人のほとんどのOSは何だったろうかというふうなことがあります。

だから、それから思うと、皆さんがコンピューターを買ったと、例えばきょう買ってきてコンピューター

ーをやられると、名前を入れてくださいと。杉山行男と入れます。これはもともと、もう042管内に住んでいる杉山行男さんと調べてやれば、そこそこピックアップで出てきますから、そうすると、その程度までのコンピューターにいったん登録したまでのものは、すべてネット経由で全部収集されています。これは収集してもいいところをクリックして、OKをしていますので、ただ、それをよそに流したりとしないということになっていて、流したり悪用はしないということになってはいます。悪用さえしなければ、自分の情報が流れることはないと思っただけなのですが、ただ、ユーザーの許可は一応得ているのですけれども、ユーザーが知らないということがまず大きなところですよ。やはり使っている人が知っていればいいのですけれども、知らないということが現実にあるものですから、やはりそれはきちんとしたほうが良いでしょう。私のパソコンの仲間も含めて知り合いは、コンピューターの中には個人を特定できるような名前を入れないと。AとかBとか、1とか2とか、私の名前は1とか、そういう記号しか入れないというふうに、もう周りでは当たり前になっています。ただ、インターネットにつながるパソコンについてはいいのですけれども、電話回線でインターネットにつないだときには、そういったところは非常に、自分が気をつけなければいけないと。そういうところまで、誰も雑誌にも書きませんし、どこも書いていないので、言っていないのかわからないのですけれども、やはり自分で気をつけなければいけない部分がある。

それは必ず向こうに行っていると思っただけではないですし、私も、音楽ソフトも買っているのですけれども、その音楽ソフトも、どういう音楽をあなたが聞いているか知りたいので、とっていいですかと。それはちゃんとメッセージが出ましたので、それは全部ガーンと中をやって、全部、絶対に行かないようにしたのですが、平気で音楽ソフト「MP3」というのですか、展開して聞いたりするのですけれども、あなたがどういう傾向の音楽を聞いているか、収集のためにとっていいですかという。いいですかとって、間違っただけでクリックしたら、私がどういう系統の音楽を聞いているかというのが、全部そのソフトをつくった会社に行くこと。

だから、それが当たり前になるようになっていくということです。基本的にはそういうことができるというふうになっていて、ユーザーがそこに名前とか、そういうことを止めることが、かなりの部分で厳しいということは現実です。だから、そういうことがある

のだというのを知った上で、やはりインターネットを楽しむなりする方がいいことです。

あと、マイクロソフトの悪口を言うとも怒られますけれども、特に「アクティブX」というソフトがありますので、これはもう無効にすると。もう黙って無効です。とにかく無効にすると、とりあえずは遠隔操作が一応されなくなるというのは基本的なことですので。それがなくても、普通にインターネットを使う分には全く問題なく使えますから。ただ、

ソフトをバージョンアップしたりするときには「アクティブX」がないとできませんので、その部分は「アクティブX」を有効にして、終わったらまた無効にすると。私は、インターネットエクスプローラーは使っておりませんので、メーカーもまた別に有料の別なメールソフトを使っています、そういうこともあるということなので。ただWindowsパソコンを買って、そこについているものを無条件で黙って使うということは、やはり避けた方がいいのかなど。このインターネットが常時接続の時代になってきたら、避けた方がいいというのが私の意見です。

#### 《小林》

どうもありがとうございました。確かにそうなのですよ。インターネットをやっている、コンピューターをやっている、匿名でやっているつもりが全然匿名ではなくて、あちこちに証拠を残していつているのですよね。

先ほど、うちにもホームページがあって、何ヒットあると言いましたけれども、そのヒットも、どこから来たかというのはやはりわかるのですよ、ログを見ると。そうしますと、例えばYAHOOから検索してきたというのがわかりますし、あと例えば「tamajiman」なんてあると、あ、石川さんから来たとか、何かあったら売れるよかと思うのですけれども、そういうのはわかるのですよね。それは、本人はそこに種をつけているつもりはないのだけれども、やはりわかってしまうのです。

例えば、YAHOOのオークションなんか、私も見るために登録したのですけれども、2回目にYAHOOを開くと、「こんにちは、小林さん」とパーンと出るのですよ。それが何か恐ろしくて、私は匿名でいつているつもりだけれども、わかられてしまっているなという感じでね。何もできないなという感じで、もうそれから、そこはやめましたけれども、その後よく調べたら、自分のパソコンの中に実は種があって、クッキーとってそこを消せばよかったのだけれども、結構まめに消えていますけれども、やはり見に行ったところからどんどん伝わっていつってしまうので、そういったことをしないと、どんどんどんどん種をまいていつってしまう。大変勉強になったような、怖いような、そういった思いがありました。

そのあたり、乙津さんはいかがでしょう。セキュリティ部門の専門家ですらいますから。

#### 《乙津》

怖いですが、本当に。

今、私は特に反対するわけではないのですが、8月5日か何かに国で住民基本台帳の大々的なネットワークを始めるとの始めないのともめております。福生市の方でも、実は個人情報保護条例の方で検討がされたのです。でも、国というのは非常な力を持っています、全国の仕組みを国が考えたから、その末端である市町村の行政は従わざるを得ないような状況に追いやられてしまうのですよ。

たまたま担当の方もいらっしゃるので、余り言いたくはないのですが、何かやはり表向き、こういう方策を打っているから大丈夫だと国も言うし、市の方もそのように答弁なさるわけなのですが、あれ、よくよく考えますと、非常に危険、危険という言い方は悪いですね。きょうのテーマから反するようになってしまうのですが、今、超党派で反対しようという国会議員の集まりとか、始まっているのですが、やはり国で全国民の情報を統合しようというのは、やはりこれは、戻ってしまいますと。戦時中の統制の方向に向かわないという保証はなくなるわけですね。

福生市の方でもコンピューター間をつなぐのは禁止されているのですが、これに関しては仕方なしで、今、つなぐ準備をしているのですけれども、そのとき国が言ってきたのは名前と生年月日と何とか、四つぐらいの項目だけだったのです。それをまた、まあつぶれはしましたけれども、10項目ぐらいつぶやそうと。そこを変えれば、国の方で幾らでも情報を取り出せるわけですね。

住民基本台帳といえますのは、管轄元であるのは市なわけですね。ですから、そのときも市長に申し上げたのですが、もし福生市の住民の情報が国から漏れたら、責任者は福生市長になるのですよと。これまた変な、変なかどうかわからないのですが、国の方は知らないよと言えるような仕組みだと私は思っています。

さらに、この間、新聞を見て驚いたのですが、それに使うOSが、何と、先ほどからのあの悪名高きマイクロソフトさんのOSを使うと。何が悪いかというと、マイクロソフトというのはこれだけ台数が売れているから、非常に強く出ているのかわからないのですが、中身が全然周りにわからないのですね。専門用語でいいますと、実行形式のプログラムを皆さんにお渡ししている。要するに、その元のソースプログラムは社内に抱えて公表しないわけですね。ですから、さっき杉山さんがおっしゃったように、マイクロソフトがお客さんにWindowsを売りました。そのマイクロソフトが自分の中でネットワークにつないだときに、そのOSが全部情報を自動的に送ってくれるかもしれないのですね。それを全然、我々はわからずに使っているわけです。ですから、そういうアメリカの一企業が作ったOSを国家的プロジェクトに使うなんていうのは、まさにこれはおかしな話であって、裏で何かあったのではないかというような気もしてもいいぐらい。

世の中、もう一つの対抗馬でありますOS、OSといっても、まあおわかりにならない方がいらっしゃると思うのですが、Windowsみたいなものだと思ってください。計算機を動かすソフトウェアです。それに昔からサンシステムズが使っているソラリスとか、ただで今、皆さんで開発しているLinuxとか、いろいろあるのですが、それらは今みんなソースコード、ソースプログラムを公開しております。

ですから、例えば、変な話ですが、新聞に載っていたのですけれども、日本とアメリカが、戦争まで

いかないにしても、そういう統制がされた。実は、皆さん御存じかどうか知らないですが、きょうは出ませんでしたけれども、暗号というものがありますね。真珠湾攻撃のころから「暗号」という言葉は有名だと思うのですが、その暗号の技術というものは非常にどの国も競って開発しております。特にアメリカは非常に金を注ぎ込んで暗号化の技術を開発しております。つい最近まで、その暗号化の技術は米国以外には出してはいかんという仕組みになっていたわけですね。ですから、アメリカの中の、Windowsとは申しませんが、ネットワークを流れるのは、非常に頑固な暗号で流れることができるのですが、いざ、アメリカから外へ行く電文はそれがつけれない。つけたところで、日本で受けても解読できないということですね。ですから、もしそういうところでアメリカが統制をかけてきたとき、国がプロジェクトとして動いているシステムがどうなってしまうのだろう。もっと裏から考えますと、では、日本でそういうシステムをつくるらしい。では、こういうことを仕組んで出荷してしまえということもできないとも言えないわけですね。こういうのをこういう場で言っているかわからないのですが。

そういう意味でも、これからはベーシックな部分、一番核の部分のソフトウェアというのは、もうオープンにすべきではないかという方向に向かっております。企業の方も、それだけやろうという企業はほとんどそちらの方向に、今、向かいつつありますね。

セキュリティというのは、先ほどもちょっと申し上げたのですが、仕組みからいっても非常に大変ですし、何よりも何をやられているかわからないというのが一番の問題だと思います。

マイクロソフトのWindowsが悪いと私は言っているわけではなくて、あれだけの台数を売り上げて、これだけ便利になった、それだけの貢献度は高いと思うのですけれども、それだったらもう少し、情報公開ではないですが、こういうことはやっていません、まあ言われてもわかりませんけれどもね。ソースコードを出されたところで、紙に印刷すればこんなになるでしょう、きっと。そんなもの片っ端から見るというわけにもいかないことは事実なのですが、あるとないのとでは全然違うと思っております。

セキュリティに関しては、余り心配し過ぎても使えなくなりますし、いいツールもできていきますので、便利さの方を本来は追求すべきだと思いますので、よろしくということはないのですが、余り御心配にならないように。ただ、裏ではそういうことがされているかもしれない。

それは、このネットワークの世界だけではなくて、例えば、なぜセブンイレブンがあんなに広まったか、コンビニエンスストアが広まったか。彼らは非常な苦勞をしているわけですね。私はセブンイレブンのシステムをやったわけではございませんので、よくはわかりませんが、よく皆さん、スーパーなんかはメンバーズカードというものを勧めますよね。なぜ



だと思いませんか。非常にコストがかかって、何%割引をしてまでもあれの会員をとりたいという理由が向こうにはあるわけです。

流通の関係の方には失礼かもしれないのですが、あれは、そのカードに申し込むときに、必ず名前と生年月日、性別、下手すると趣味まで書かされる場合もあるのですが、要するに、そのカードを使ったのは何歳の男性か女性か、どういう方かという情報が入るわけです。ですから、それをレジに通しますと、何時何分は何歳の女性がこういう買い物をしていた。要するに、この店では統計を取りますと、こういう方がこういう買い物をする率が高いというのが、全部、毎日集計ができてしまうわけですね、自動的に。それで、そういう品物だけを置くようになるのですよ。

素人にはちょっとわからないかもしれないのですが、福生駅のところのセブンイレブンと南田園のセブンイレブンは、多分、並んでいる品物が違うかもしれませんが、細かいレベルでは。そういう営業をして、あれだけ大きくなるのです。ですから、個人情報、非常にそういう面では使われている。

それから、私は今だJRで通っているのですが、「Suica」の定期カードは使っていません。あの「Suica」のカードは、御存じの方もいらっしゃると思うのですが、ICカードといいまして、中に結構な情報が入るのです。そこにももちろん名前と生年月日、年齢、男女、区別がつきます。改札機を通ります。一見便利ですね。全部それは読みとれるのです。ですから、名前まで読むのですよ。何の誰べえが何時何分は何の駅の何番改札を出たというのを、やろうと思えば全部記録できてしまう。JRの方がいたらごめんなさい。やっていないと思うのですけれども。(笑い)

さらに悪いことは、ICカードというのは、今、タッチすればいいと言っていますね。あれは、前原先生は御存じだと思うのですが、ある意味では電波を出しているわけですから、タッチなんかしなくても読み取れることもできるのだそうです。ということは、今、警察が、警察の方はいらっしゃると思いますが、(笑い)いろいろな道路にナンバーを映す、何ていうのですか、あの仕組み。そこらじゅうにありますね。あれは犯罪捜査に使うと言っているのですが、しかも記録はしないという約束でやっているのですけれども、実は裁判にあれば証拠として出ていますね。ということは、口約束なのか、条例で書いてあるのか知りませんが、要するに、誰の誰べえの車、乗っている人までは撮りませんが、この車が何時何分、どこの道路のどこを通ったというのが全部調べられますし、メモっておけば、さかのぼっても調べることができる。

ですから、何ていうのですか、その便利さは確かなのですが、自分の行動を全部記録されてしまう、その恐ろしさも裏腹にあるというのは、親しむテーマには非常にそぐわないのですけれども、心に置いておかれた方がよろしいのではないかと思います。

私の家内が社会福祉協議会の方で目の不自由な方のためにパソコン教室を開いております。今、目

の不自由な方が、非常にやはりメールだとか、こういう情報処理に興味を持っておられまして、どんどんメンバーが増えているようなのでございますけれども、果たして目が不自由でどうしてパソコンを使われるのかなと私も思ったのでございますけれども、実は全部画面を読み上げるのです。そのような仕組みができております。

専用のソフトがありまして、お使いの方がいらっしゃると思うのですが、でも、「駅すばあと」というソフトでございまして、例えば明日、福生に住んでいる方がどこどこへ行かなければいけないのだよと。例えば麻布十番。麻布十番なんて言われたって、どこに行っていけばいいか、さっぱりわからない人がいらっしゃるのではないかと思います。要するに福生駅から麻布十番まで行きたいのだけれども、どう行けばいいのだというのを調べてくれるソフトでございまして。

例えば青梅線で立川へ行って、中央特快で四谷へ行って、南北線に乗って麻布十番だと。時間が大体1時間25分かかると。電車に乗っている時間は56分で、乗りかえとか待ち時間は29分、値段は850円だと、即座に出てくるものです。

いろいろな経路がございまして、それを全部拾い出してくれるわけですね。値段と時間を比べながら決めればいけななのですが、そのソフトのすぐいところは、例えば、きょう何時に麻布十番に行かなければいけないのだよと。では福生駅を何時に出たらいいいのというのを出しますと、何時何分発の青梅線に乗ればいいいのまで出してくれるわけです。

それを使うと、分厚い時刻表を見なくてもいいですし、大まかに決めて今までは行ってましたよね。そんなのをしなくていいと。あと定期券は幾らだとか、全部出るのですよ。日にちを入れると、ちゃんと土曜日の時刻表になったり、日曜日の時刻表になったりもしますし、時刻表を出したければ、例えば福生駅の時刻表を見たいというのと、ちゃんと出てまいります。

他にも地図のソフトなどがありまして、非常に細かいところまで見ることもできるものもあります。車なんかですと、ナビゲーターが付いていますが、あのようなイメージを持っていただければよろしいかと思います。

それからもう一つお話ししたいのは、先ほど申し上げた目の不自由な方用に音声ができるソフトがございまして。それを使えば、送られてきた文章などを、目の不自由な方がちゃんと読めるわけですね。操作の仕方も全部読み上げます

インターネットのホームページも、そういう指針がございまして、こういうルールにのっとってつくると、きちんとこのソフトで読めるというのが、実は決まっております。ですから、福生市のホームページもぜひその指針にのっとっていただければ、目の不自由な方もきちんと読めるというわけですね。

ちょっとお時間もございませぬので、一番初めの話題の便利さという面からいいますと、もうこま

で個人用にできているということですね。

この中でパソコンをまだ本格的にお使いでない方がいらっしやったら、そんなことまでできるのだということで、ちょっとお話をさせていただきました。

《小林》

どうもありがとうございました。

何か安全性の話から利便性の話に、また、お願いしたわけでございますけれども、まずセキュリティの問題ですね。これはやはり、もう切っても切り離せない。先ほど包丁の話、ダイナマイトの話をしましたけれども、より便利なもの、より利便性の高いものは、使う側により大きな責任が求められると。また、より高い道徳性が求められるというものです。しかしながら、その安全性さえみんなの英知を結集してクリアしていけば、これはないよりも絶対にあった方がいい。このようにして、いろいろな体の不自由な方も助かる部分がありますし、また我々も便利な部分がいっぱいあります。したがって、我々はもうすぐ、恐らく「鉄腕アトム」の時代を迎えると思うのです。コンピューターを上回るロボットですね。でも、やはり最終的に求められるのは、我々人間一人ひとりの道徳ではないかなということと、きょう私は感じました。

以上、つたない司会ではありましたが、これをもちましてフォーラムを終了します。どうもありがとうございました。（拍手）

《市長》

こういう話になると、幾ら時間があっても、恐らく話が終わらないだろうなという感じになってまいりました。

きょうは特にコメントしませんが、この後、こういう人が福生にいて、こんなことをやっていて、いろいろ何かあったときには聞けばいいやというようなことがわかれば、それがこれからの、いろいろな形が作られていく一つの財産になるのではないかと、そんな思いがいたしました。

今後もいろいろなことを具体的な問題として聞いたり、あるいは研究したり、話したりしていかねばいけないことがあるのではないかなと、その入口の話でございました。きょうは小林さんと乙津さんにコーディネーター役をお引き受けいただき、それから話題提供者として杉山さんと前原さんにいろいろなお話をいただきました。4人の方々から感謝を申し上げて、最後は拍手で終わりにしたいと思います。

どうもありがとうございました。（拍手）

終了 -